

CASBEE-建築(新築)2014年版
Asian Frontier 6号棟増築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境						
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 騒音		-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-	-
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	-
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	4.3
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性		3.9	0.50	-	-	3.9
2.1 耐震・免震		3.8	0.50	-	-	-
1 耐震性	建築基準法に定められた25%増の耐震性能を有する。	4.0	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	30年以上	5.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	20年以上	5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	汚水排水、雑排水:VPを使用。	4.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-

2.4 信頼性			4.6	0.20			
1	空調・換気設備	地震時に機能停止しない。災害時は負荷容量を下げて運転可能。	4.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用。受水槽は二基を分離して配置。	4.0	0.20			
3	電気設備	無停電電源設備を設置。	5.0	0.20			
4	機械・配管支持方法	耐震クラスS	5.0	0.20			
5	通信・情報設備	2ルートからの引き込み。	5.0	0.20			
3 対応性・更新性			4.6	0.50			4.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30			
1	階高のゆとり	階高5.0m	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.19	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり		床荷重4500N/㎡以上	5.0	0.30			
3.3 設備の更新性			4.4	0.40			
1	空調配管の更新性	構造材・仕上材を痛めず更新・修繕可能	4.0	0.20			
2	給排水管の更新性	構造材・仕上材を痛めず更新・修繕可能	4.0	0.20			
3	電気配線の更新性	構造材・仕上材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.10			
4	通信配線の更新性	構造材・仕上材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性	構造材・仕上材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保	将来対応スペース、バックアップスペースの確保	4.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57			2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-			3.9
LR1 エネルギー			-	0.40			4.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				-			-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13			3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.83	5.0	0.63			5.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI=0.60	5.0	1.00			
集合住宅の評価(3c)				-			
4 効率的運用			4.5	0.25			4.5
集合住宅以外の評価			4.5	1.00			
4.1	モニタリング	設備システムの性能評価を行う	5.0	0.50			
4.2	運用管理体制	年間エネルギー消費量の目標値を設定	4.0	0.50			
集合住宅の評価				-			
4.1	モニタリング			-			
4.2	運用管理体制			-			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.4
1 水資源保護			3.4	0.20			3.4
1.1 節水		節水型器具の使用。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60			3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメント:杭に使用	5.0	0.22			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体、内装材、設備機器の分別が可能	5.0	0.22			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20			3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70			
1	消火剤	N2ガス消火	4.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム打ち込み等	5.0	0.33			
3	冷媒		3.0	0.33			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.4
1 地球温暖化への配慮		リサイクル材の利用により、CO2排出量を削減	3.8	0.33			3.8
2 地域環境への配慮			3.2	0.33			3.2
2.1 大気汚染防止		燃焼機器不使用	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減		-	-			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33			
3	交通負荷抑制		2.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	1.00			
2	振動		-	-			
3	悪臭		-	-			
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制		-	-			
2	砂塵の抑制			-			
3	日照阻害の抑制		3.0	1.00			
3.3 光害の抑制			4.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物を設置しない	4.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	ガラスなど、高反射の材料の不使用。	4.0	0.30			